

水稻新品種「ヤマチカラ」について

小野敏忠・岡田正憲・渡辺進二・本村弘美・井辺時雄・志村英二・西山 寿・赤間芳洋・和佐野喜久生
(九州農業試験場)

ONO, T., M. OKADA, S. WATANABE, H. MOTOMURA, T. IMBE, E. SHIMURA, H. NISHIYAMA, Y. AKAMA and K. WASANO
: A New Rice Cultivar "Yamachikara"

水稻新品種「ヤマチカラ」は、1983年に育成され、兵庫県で奨励品種に採用されることとなった。そこで、本品種の育成経過ならびに特性概要を報告し、普及上の参考に供したい。なお本品種の育成には、関係各府県農業試験研究機関の係官の御協力をいただいた。ここに厚くお礼申し上げます。

1. 来歴ならびに育成経過

本品種は、「レイホウ」の早生・強稈化を目標に、1969年九州農業試験場において、「レイホウ」を母、「関東98号」を父として交配した組合せについて、 $F_1 \cdot F_2$ を温室で世代促進し、 F_3 を本田で個体選抜し、 F_4 以降系統選抜を行ってきたものである。1975年(F_8)より「西海144号」の系統名で関係各府県に配付して地方的適否を検討した結果、1983年5月に「水稻農林271号」として登録され、「ヤマチカラ」と命名された。1983年現在 F_{16} である。

2. 特性の概要

1) 形態的特性 苗はやや長く、細い。葉身の幅はやや狭く、葉身と葉鞘の色は濃い。止葉は直立して、草姿は良い。稈はやや太く、剛柔は剛である。やや短稈・短穂で、穂数はやや多く、草型は偏穂数型に属する。穂軸の抽出は中程度で、まれに短芒があり、穂の粒着はやや密、脱粒はやや難である。玄米の粒形は中、粒大と光沢はやや大、心白はほとんど見られず、腹白と胴割れは極く少なく、見かけの品質は良い。搗精歩合は高く、食味は「日本晴」並みに佳良である。

2) 生態的特性 「日本晴」に比べ、出穂期は4日、成熟期は5~6日それぞれ早く、熟期は育成地(筑後)と兵庫県総合農業センター(明石)のいずれにおいても、早生の早に属する。耐倒伏性は「日本晴」より優れ強である。耐冷性は「日本晴」並みに低い。耐病性のうち、いもち病については真性抵抗性遺伝子として $Pi-ta$ と $Pi-ta^2$ を持つと推定され、葉いもちの岡場抵抗性は同一遺伝子型の「レイホウ」(弱)より優れ、中程度とみなされる。白葉枯病抵抗性は黄玉群に属し中程度、ごま葉枯病抵抗性は「日本晴」よりまさり中程度である。また、紋枯病にやや弱いが、イネわい化病には強い。収量性は、「日本晴」あるいは「ニホンマサリ」と同等またはそれ以上に高く、兵庫県の普及見込地帯では両品種より多収を示す。

3. 適地及び奨励品種採用県

近畿西部の中山間地帯に適すると考えられ、冷害の発生しやすい高冷地には適さない。奨励品種採用県の兵庫県では、県内の中部中山間地帯(播磨・摂津)と北部平原地帯

第1表 ヤマチカラおよび比較対照品種の特性

品種		ヤマチカラ	ニホンマサリ	日本晴
形質	早 晩 生	早生の早	早生の早	早生の晩
	草 型	偏穂数型	偏穂数型	偏穂数型
稈 長 (cm)		69	68	72
穂 長 (cm)		17.2	17.8	18.2
穂 数 (本/㎡)		414	415	413
芒の多少・長短		稀・短	稀・短	少・短
脱 粒 性		やや難	難	難
耐 倒 伏 性		強	強	中
耐 冷 性		弱	弱	弱
耐 病 性	葉 い も ち	中	やや弱	やや弱
	白 葉 枯 病	中	中	中
	イネわい化病	強	強	弱
	ごま葉枯病	中	やや弱	弱
玄米重 (kg/㍏)		49.0	48.4	49.1
玄米千粒重 (g)		23.4	22.7	22.1
玄 米 品 質		中上	中上	中上
食 味		中上	中中	中上

注) 兵庫県農業総合センター(1976~1982)の標準栽培試験成績による。

(但馬・丹波)の「ニホンマサリ」、「近畿33号」の全部と、「日本晴」の一部に替わって普及するものと思われる。

4. 栽培上の注意

1 穂粒数はやや少ないので、穂数の確保に努める。やや大粒なため、肥料切れしないよう、また落水期を早め過ぎないように、適切な肥培ならびに水管理を行う。いもち病は、真性抵抗性を持つので通常発病はみられないが、菌系の変動により発病することがあるので、注意する。

5. 命名の由来

「山力」と書き、中山間地帯で多収・強稈・良質の特性を発揮することを意味する。

(文責 渡辺進二)